

1. ねらい

重く施工に技術が求められる間知石^{けんちいし}やコンクリートブロックよりも安全で効率的に擁壁を施工するため、「軽量フレーム使用のもたれ式コンクリート擁壁」の開発を進めています。

2. 概要

土地造成のための擁壁には、古くは間知石等を用いた石積、現在ではコンクリートブロックが普及・定着していますが、これらは重量が重くまた施工に技術が求められます。このため、軽くて組立が簡単な「軽量フレーム」を使用したもたれ式コンクリート擁壁を開発しました。

この擁壁には、①直高1.50m以上の施工も可能で自由度も高い、②水路の呑口^{のみぐち}や水抜きパイプの設置も容易、③天端幅は40cmとブロック等の施工と同等にも関わらず、床幅が少なく済むことから掘削高を抑えられる、④型枠の平割材を縦使いして曲線を描けることから地形に沿った施工が可能、といった特長があります。



3. 成果

治山事業の山腹基礎工等に使っており、施工事業体にも、「簡単で軽量なことから施工が容易。」、「施工期間を大幅に短縮出来た。」等好評を得ています。

4. 問い合わせ先

伊那谷総合治山事業所

電話0265-22-1133